

広報

おまず

2018

7

No.162

優しさと涼やかさ

がんばる大洲っ子

エール交換の団長を経験して

大洲北中学校 3 年

長 田 武 琉 さん



僕は、5月25日(金)に行われた第59回開校記念式典のエール交換で、大洲北中学校の団長として、全校生徒の指導とまとめ役を務めました。

大洲南中学校と合同で開催される開校記念式典では、毎年エール交換が行われます。1、2年生の時に見た団長の姿に憧れて、立候補しました。

団長として全校生徒をまとめることは、思っていた以上に大変でした。下級生への指導は、自分では分かっていても、相手に伝えられないもどかしさを感じました。それでも、全校練習を重ねていくうちに、指導の成果が表れました。

本番のエール交換では、生徒全員の力が集結したエールが披露できたと思います。それは、いつも支えてくれた仲間や、多くの先生のお陰だと思っています。

団長として得た経験を生かし、別の行事でも、全員を引っ張ることができるリーダーになりたいです。

7月の納税など

納期限は 7 月31日(火)です。

税 別	7 月	8 月	9 月	10月
市 県 民 税		2 期		3 期
固 定 資 産 税	2 期		3 期	
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	1 期	2 期	3 期	4 期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

人の動き(先月比)

人口	43,854人 (- 20)
男	20,927人 (- 25)
女	22,927人 (+ 5)
世帯数	20,070世帯(+ 1)

交通事故(去年同期)

件数	42件(34 件)
死者	0人(1 人)
負傷者	58人(40 人)

(2018年 5 月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3 ページ～	二宮大洲市政スタート
6 ページ～	(特集)「チーム・ニモ」が目指す 社会貢献
8 ページ～	おおずニュース
14ページ～	シリーズ
16ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ	集まれO級若モン
25ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと (生まれも育ちも大洲です)

今月の表紙



6月4日(月)、櫛生公民館横のしょうぶ園へ撮影に行きました。青紫や薄紫、白色の美しいハナショウブ約1万本が咲き誇っていました。

四国地方は、昨年よりも20日ほど早い入梅でしたが、この日は晴天に恵まれ、満開のハナショウブを楽しむことができました。

二宮大洲市政スタート ～新市長初登庁～



大洲市長選挙が5月13日(日)に告示され、5月20日(日)に投票が行われました。即日開票の結果、二宮隆久^{たかひさ}候補(63歳・徳森)が新しく大洲市長に選ばれました。

5月21日(月)、二宮市長は、大洲市役所に初登庁し、正面玄関で職員らの出迎えを受けました。

その後、市長訓示が行われ、二宮市長は「市役所は、市民のみなさんに福祉を提供するサービス産業でありたいと考えている。職員のみなさんと力を合わせ、市民の笑顔があふれる元気な大洲市をつくっていきましょう」と述べました。



「人・自然・文化がきらめくまちづくり」を目指して



大洲市長

二宮 隆久 たかひさ

5月20日に執り行われました大洲市長選挙において市長に就任し、市政の重責を担わせていただくこととなりました。

皆様からお寄せいただきました信頼と期待にお応えするため、清水前市長が掲げてこられました「3つのC（チェンジ、コラボレーション、チャレンジ）」に、市民の皆様との対話と情報発信の意を込めました「コミュニケーション」のCをプラスした「4つのC」をまちづくりの基本姿勢として、未来に夢を持ち、郷土に誇りを持てる活力ある大洲市を目指して全力で取り組んでまいります。

現在、人口減少、少子化、長寿化が進展し、医療介護サービスや年金など社会保障費の増大、公共

施設やインフラなどの老朽化対策、南海トラフ地震や自然災害への備えなど、本市を取り巻く社会情勢も大きく変化していて、自治体の在り方が問われています。

このような厳しい時代を乗り越えていくために、次の5つの柱をまちづくりの目標として掲げ、市政の発展に努めていきたいと考えています。

健やかに暮らせるまちづくり

寿命と健康寿命が限りなく近くなるよう、高齢者の皆様が健康を保ちながら元気に活躍できる環境づくりを行ってまいります。また、地域医療体制を守っていくとともに、安心して子供を産み、育てる環境を整えていくため、保育サー

ビス、就学前教育や学童保育など子育て支援施策を拡充していきたいと考えています。そして障がいのある方も住みやすく、いじめや差別のない人権尊重のまちづくりを推進いたします。

市民の皆様がともに支え合いながら、生きがいをもって、安心して健やかに暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

活力あるまちづくり

産業の振興と雇用の創出に努め、希望をもって安心して働くことができる環境を整えていきたいと考えています。さらに、若い力が伸びやかな創造力をもって、新しい事業に挑戦する新規創業やこれまでとは違った切り口で事業の

拡大にチャレンジする第2創業など、新たな事業が芽吹き成長することで、多くの人材が多様な産業を支え、発展していくような自由闊達な産業風土を育んでいくため、地域の強みを生かす起業を支援していきたいと考えています。

そして、基幹産業である農林水産業で働く方々の所得向上につながるよう、地域の特性をいかして高い値段で売れるものづくりや付加価値の高い加工品作りなど、6次産業化や地域産品のブランド化を推進してまいります。

また、肱川流域の文化遺産や豊かな自然など、全国に誇れる地域資源に磨きをかけ、広く発信していくことで、国内外からの観光客など交流人口の拡大につなげる取り組みを進めてまいります。

安全・安心のまちづくり

市民の皆様の生命や財産を守っていくため、社会基盤整備の充実を図ってまいります。引き続き、山鳥坂ダム建設や肱川の堤防整備、河床整正など治水対策を推進し、あわせて今までの想定を上回る豪雨や台風など、今後起こりうる災害に対応できるように避難場所や避難経路の整備、消防団をはじめとする地域防災体制の強化、防災・減災対策の充実に取り組んでまいります。

また、松山自動車道（松山IC（大洲IC）及び大洲道路の全線4車線化の早期完成、大洲・八幡浜自動車道（大洲西道路、八幡浜道路、夜昼道路）の整備促進に力を注ぎ、災害に強く、地域の活性化や産業振興の基盤となる道路ネットワークの形成を図っていきたくて考えています。

誇れる郷土のまちづくり

保育所と幼稚園、小・中学校の連携を行いながら安心して学べる教育環境の充実を図ってまいります。そして、子供たちが大洲を誇りに思えるように大洲らしさのある教育を進めるとともに、高等教育機関との連携の強化やグローバル化に対応できる人材育成を行っていきたくて考えています。

特に、「ふるさと大洲を愛する人づくり」に向けて、社会全体でふるさとへの誇りと愛着を持つ子供たちを育み、豊かな学びを支える地域づくりに力を尽くしてまいります。

また、地域の歴史や文化を継承し、身近な文化芸術に親しむ機会を創出するなど、地域に根ざした文化やスポーツ、生涯学習の振興と、その拠点づくりを行い、オンリーワンのまちづくりに取り組んでまいります。

住み続けたいまちづくり

住み慣れた場所で、元気に活躍しながら暮らしていけるように、公共交通空白地の交通手段を確保できるよう、地域公共交通体系の整備を行ってまいります。そして、中山間地域の自然や豊かな地域資源を活用し、その特色や個性をいかした地域づくりを支援することで、あらゆる地域が元気になれるよう、地域振興と賑わいの創出を図っていきたくて考えています。

また、老朽化した市民会館や公民館など公共施設の適切なリニューアル、移住・定住施策の推進に取り組み、市民の皆様と協働して、次の世代においても大洲市で暮らしたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めてまいります。

チームおおずで

公約に掲げました「人・自然・文化がきらめくまちづくり」を目指して、市民の皆様とともに力をあわせ、市民の皆様と一丸となった「チームおおず」で、市民一人ひとりがきらめき、そして地域全体が輝いている元気な大洲市を創ってまいりたいと考えていますので、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

(特集)「チーム・ニモ」が目指す 社会貢献

高校生ビジネスプラン・グランプリで準グランプリ受賞

第5回「高校生ビジネスプラン・グランプリ」が1月7日(日)、東京大学本郷キャンパスで開催され、長浜高等学校水族館部「チーム・ニモ」(重松楽々さん、梶岡萌伽さん)が準グランプリを受賞しました。

この大会は、将来を担う若者の創業マインド向上を目的に、全国の高校生を対象としたビジネスプラン・グランプリです。高校生ならではの自由な発想や想像力を生かした「人々の生活や世の中の仕



組みをより良いものに変えるビジネスプラン」や「地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決するビジネスプラン」が募集されていて、385校、3247件のエントリーがありました。提出されたプランは、書類選考で経営資源や収支計画などの項目で評価され、最終審査会に進出するファイナリスト10組が決定します。ファイナリストは、最終審査会にてプレゼンテーションを行い、本グランプリの頂点を目指します。



(写真提供: 日本政策金融公庫)

先輩たちの思いを引き継いで

「チーム・ニモ」が今回提案したプランは、サーフィンなどのマリンスポーツをする人を対象に、クラゲに刺されないようにするためのクリームを開発・販売するビジネスプランです。クラゲの毒針発射を抑制する効果のあるマグネシウムを生かし、商品化を目指します。

長浜高等学校水族館部では、約6年前から、毒を持つイソギンチャクにカクレクマノミが刺されない理由を研究してきました。そして2年前、刺されない理由の1つが、カクレクマノミの体表粘液中に高濃度のマグネシウムイオンが含まれているからだということを知り、世界で初めて発見しました。

また、その翌年には、イソギンチャクが持つ毒針発射の仕組みが、クラゲにもあることを明らかにし、クラゲの触手に対してもマグネシウムイオンによって刺されなくなることが判明しました。

一方、マリンスポーツをする人が受けるクラゲの被害は、世界中で多発し、深刻化しています。しかし、現在発売されているクラゲ

予防クリームは、イスラエル製の商品のみであり、マリンスポーツ業界からは国産のクリーム発売の要望が強くありました。そのため、化粧品・製薬会社などの関係者から、クラゲ予防クリームの開発の問い合わせが入り、長浜高等学校水族館部の研究に、各業界から注目されることとなります。

そこで、「チーム・ニモ」は、先輩たちが研究してきた成果を応用したクラゲ予防クリームを開発し、すべての人が安心してマリンスポーツを楽しめるよう社会貢献したいと考えました。そして、商品の収益を活用し、長浜水族館の再建をプランの最終目標に掲げました。



水族館部の特性を生かして

クラゲ予防クリームは、既存の水槽に加えて今回、県や愛媛小林製薬株式会社（新居浜市）から提供された水槽を活用し、生きたクラゲを使って研究・開発を行っています。なお、実験に用いるアカクラゲは、水族館部顧問の重松洋先生によって長浜沖で採取されました。

クラゲの予防ができているかを確認する実験では、クリームを塗った竹串をアカクラゲの触手に当て、竹串が触手に絡まなければ、実験は成功といえます。

「チーム・ニモ」は、これまで



竹串には水族館部作成のクリームが塗られていて、クラゲの触手に当てても絡まない。

静岡県に本社のある株式会社ABSの全面的なバックアップのもと、5つの試作品を仕上げてきました。クラゲ予防の効果も発揮されるのは、マグネシウムがイオンとして溶けている時です。クリーム中の水と油が分離するのを防ぎつつ、効果が発揮されるよう成分の配合を調整したり、混ぜる順番を変更したりしてきました。今後は、この試作品の改良を続け、強い毒性を持つ別のクラゲに対しても効果が発揮されるかを確かめ



左から順に試作されたクリーム。

る実験を行う予定です。クラゲ予防クリームの開発は、サーフィンが正式種目として採用される東京オリンピックピックを見据え、来年2月に商品化を目指しています。商品の主なターゲットは、サーファーですが、将来は、海水浴を楽しむ人や漁業関係者などにも利用される可能性があると考えています。

本研究に携わったみなさん



左から

重松 楽々さん（3年）

河原 羽夢さん（1年）

梶岡 萌伽さん（3年）

※現在は、重松さんと河原さんに研究を行っています。

次につながる研究

今回の「チーム・ニモ」の準グランプリ受賞は、長年に渡る長浜高等学校水族館部の研究と、チームのメンバーの努力によってつかむことができたのだと思います。

長高水族館は、日本で唯一、高校生が運営する水族館です。毎月第3土曜日には、一般公開され多くの人が訪れています。平成27年には、「国際学生科学技術フェア」に日本代表として出場し、動物科学部門で優秀賞4等賞を受賞すること、一躍有名になりました。

その研究の成果は、後輩へと受け継がれ、今回のクラゲ予防クリームの実用化へと発展していきました。現在研究している内容も、後輩へと受け継がれ、さらなる成果が得られると思います。

「チーム・ニモ」の研究は、実現性が高く、業界からも大きな注目を集めています。これからも、長浜高等学校水族館部の躍進と地域社会貢献に期待しています。